

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

|         |                     |       |       |
|---------|---------------------|-------|-------|
| 事業所番号   | 4076200452          |       |       |
| 法人名     | 社会福祉法人 全和会          |       |       |
| 事業所名    | グループホーム わかば         | ユニット名 | A棟・B棟 |
| 所在地     | 福岡県飯塚市太郎丸字一ツ木499番地1 |       |       |
| 自己評価作成日 | 平成27年2月16日          |       |       |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a> |
|----------|---|

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                           |         |            |
|-------|---------------------------|---------|------------|
| 評価機関名 | 株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター |         |            |
| 所在地   | 福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号       |         |            |
| 訪問調査日 | 平成27年2月18日                | 評価結果確定日 | 平成27年3月28日 |

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

清潔な環境で気持ちよく暮らせるように掃除や環境整備、整理整頓に力を入れています。又、四方から見える中庭を利用し季節の花を植え夏にはゴーヤでグリーンカーテンを作り、涼と食を満喫しています。又、食べる事が一番の楽しみになっているので正月料理を始めとしお彼岸やお節句等の季節感のある年中行事や誕生会等も大切にしています。法人内の他の事業所との交流や合同の行事等も参加し楽しんでいただいております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

劇団「わかば」が結成され、地域への案内を行い、文化会館での演芸披露を行ったり、地域の中でも慰問活動を行っている。また、今年度は、以前入居されていた単身の方の3回忌法要を行うなど、人と人とのつながりを大切にしている。桜や梅、コスモス等、四季折々の花見に出かけたり、甘酒や七草粥、土用の丑の日等、季節や年中行事にあわせた食事を提供し、四季の変化を感じられるよう過ごしている。また、外出先のホテルレストランとの事前協議を行い、刻み食等に対応した御膳を楽しむ機会もある。中庭で開催される夏祭りでは、皆で浴衣やハッピーを着て、焼き鳥やたこ焼き、焼きそばを食し、楽しむ姿も見られる。活動的な取り組みも多く、今後は更に個別性ある支援に結びつけるべく取り組む意向である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   | 項目 |   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:25,26,27)       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいの<br>3. 利用者の1/3くらいの<br>4. ほとんど掴んでいない | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,21)   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:20,40)             | ○                     | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,22)                     | ○                     | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:40)                   | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○                     | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:38,39)    | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 | 職員は、生き生きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○                     | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:51)                  | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている<br>(参考項目:32,33)        | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:30) | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |    |   |                       |   |

| 自己評価および外部評価結果      |     |   |  |   |                   |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|                    |     |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |  |   |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている  | 職員会議の中で理念の確認をし、共有を再確認する  | 職員会議では、理念や地域密着型サービスとしての役割について共有認識を図り、実践に結び付けるよう努めている。   |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している  | 自治会の一員として隣組に加入し町内の掃除や各行事に参加し、交流を深め、施設の行事等にも案内する。                     | 隣組に加入し、地域行事や清掃活動等に参加している。劇団「わかば」が結成され、地域住民への案内を行いコスモスコモンでの公演を行ったり、地域での慰問活動を行っている。   |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている  | 近所の方の相談にのったり、助言したりすることもあるが、最近は入所希望の申し込みを頂いている。実際入所もあり。               |   |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている                                     | 運営推進委員会を二ヶ月に一度開催し、市職員や、地域福祉委員、利用者様家族の参加もいただき、アドバイス等を受け参考にさせていただいている。 | 運営推進会議には、家族や地域役員、地域包括支援センター職員の出席を得ている。運営状況の報告を行い、意見交換や助言をサービスの向上に活かせるよう努めている。   |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる  | 介護保険上の事やサービスのことなど分からない事を尋ねたり、相談している。                                 | 出来る限り行政窓口へ出向き、運営や制度に関する質問や相談を行っている。また、地域密着型サービス事業所連絡協議会での活動を通じて、行政との連携を図っている。   |                   |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の施錠は夜間、早朝を除いて開放状態にあります。又、身体拘束は行わない方向でケアに取り組んでいます。                  | 日中は玄関の施錠は行われていない。不意な外出の意向にも、自宅への道のりをともに歩く等、寄り添う支援を実践している。また、隣接するタクシー会社との協力関係もあり、実際に役立った事例もある。医師との連携も図りながら、夜間も無理な睡眠は誘導していない。 |                   |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている                                     | 新聞やメディア等で報道された事は会議の中で研修課題とし、職員に周知している。                               |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  | (6)  | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している  | 成年後見人制度の勉強会に参加し、学ぶ機会を作っている。また、講習会等に参加したときは、資料を配布し、周知している。               | 玄関ホールに権利擁護制度に関する資料を掲示し、常時閲覧可能としている。地域密着型サービス事業所連絡協議会では研修部門を担当し、これまでに制度に関する研修を実施している。                       |                   |
| 9  |      | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている   | 契約時には、家族に契約内容、重要事項説明等を丁寧に行っている。   |  |                   |
| 10 | (7)  | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   | 家族等が面会に来訪された時、又は利用者様の日常の様子を報告させていただいている。                                | 不定期ではあるが、事業所通信を発信している。運営推進会議や家族来訪時等を通じて、意見や要望の収集に努めている。苦情の内容によっては、行政への報告や相談を行い対応している。                      |                   |
| 11 | (8)  | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている  | 月一回から二回の職員会議の中で、定例の幹部会議の決定事項や連絡を密に流し、職員の声を聴く様にしている、意見等を出しやすい形で会議を行っている。 | 職員全員参加を基本とする会議を開き、業務内容に検討や、周知事項の徹底を図っている。  |                   |
| 12 |      | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている  | 業務負担等を十分理解した上で希望公休を取り入れシフト製作を行なっている。また日頃の勤務評価等を行い本人の能力に応じた昇給等考慮している。    |  |                   |
| 13 | (9)  | ○人権の尊重<br>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員採用に当たっては、性別や、学歴等の偏見等は持っておらず、福祉に対する基本姿勢を、働く意欲のある人を優先して採用している。          | 職員の採用にあたり、言葉使いや接し方を大切にし、年齢や性別、経験等による排除は行っていない。外部研修参加に向けたサポートを行い、個別のスキルアップを図っている。今後は、内部での研修体制を充実させていく意向である。 |                   |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動<br>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる   | 人権教育等、内部研修を、職員会議や朝礼の中で周知徹底している。   | 定例会議等において、言葉や対応、ケアのあり方について、振り返りや確認する機会を持ち、職員への周知を図っている。  |                   |

| 自己                           | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
|                              |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15                           |      | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 新人や若手職員を対象としたセミナー等積極的に参加する機会を作っている。又、日常の勤務の中で先輩職員の指導を受ける機会を作っている。                           |   |                   |
| 16                           |      | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域密着型、施設やグループホームで作る連絡協議会等に参加し、定例の部会にも出席し、同業者との交流や意見交換を行なっている。又、部会の会場は各施設持ち回りとし、視察・見学も兼ねている。 |   |                   |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |      |  |   |   |                   |
| 17                           |      | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている           | 新規入所者には、施設の生活に慣れていただくため、深く関わり本人の訴えに傾聴し不安や困惑を和らげるように努める。                                     |   |                   |
| 18                           |      | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                      | 入所時は、介護職員や管理者と共に、家族の話をよく聴くようにしている。  |   |                   |
| 19                           |      | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                  | 傾聴し、本人と家族のニーズを見極めた上でサービス、プランへの取り組みを入れる。   |   |                   |
| 20                           |      | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                                  | 洗濯物をたたんでいただいたり、花壇の水やり、食材の下準備等、出来る利用者様には手伝っていただいている。   |   |                   |
| 21                           |      | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている                   | 家族と連絡を取り、家族に出来る事なるべくしていただき、本人との関係(絆)が損なわれる事が無い様に努めている。                                      |   |                   |
| 22                           | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                               | なじみの人がいつでも立ち寄れるような施設環境を作っている。面会者が来られた時ゆっくり出来るように居室への案内等配慮している。                              | 自宅の様子を確認するために散歩に出かけたり、近所の方に会いたいという希望に対応している。他施設に暮らしている息子さんに会いに出かけたり、家族との連携により御主人の命日の仏参りに出かけている。 |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |  |
|------------------------------------|------|--|--|--|--|
|                                    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 23                                 |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                                    | 自立度の低い利用者様が孤立しないように元気な利用者様が声掛けしたり、手をさしのべたり、コミュニケーションを取ろうとされている姿を良く見かけます。     |  |  |
| 24                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 死亡退所を除き、家族の都合での転居等で契約が終了した利用者様は近況報告等を家族やご本人から受けている。                          |  |  |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |  |  |
| 25                                 | (12) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 歩行可能な利用者様は、散歩がてら、近くのスーパーや自動販売機まで歩いて行き、自分の欲しい物を選んで買ったり、出来るだけ外出の機会を叶えるようにしている。 | 家族の協力も得ながら入居時に情報収集を行い、日々の言葉を大切に捉え、職員間で共有に努めている。自宅の様子を眺めに散歩がてら出かけたり、近所の方に会いに同行している。 |  |
| 26                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 入所時に聞き取りをし、入所後も機会があれば既往歴や生活パターンやサービス利用に付いて話を伺うようにしている。                       |  |  |
| 27                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 家族に在宅での暮らしや心身の状況を伺い現状の把握に努めている。  |  |  |
| 28                                 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | サービス計画作成前に担当者会議を開き職員の意見等も聞き入れながら、より良いサービスが出来るように努めている。                       | 個別の介護計画を作成し、関係者での共有に努めている。   | 本人、家族の意向の反映や、個別カンファレンスやモニタリングの充実を図り、現状に即した計画作成に向けた取り組みが必要です。 |
| 29                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 日々介護記録を記入し、引継ぎの中で日勤者から夜勤者へ、夜勤者から日勤者へ情報を共有し、ケアや計画を見直している。                     |  |  |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |  |
|----|------|---|---|---|--|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 30 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる                            | 入退院や、急変時における対応については、その時々において利用者様の状況で対応している(家族の居ない方については入院時の手続きや書類上の手続きなど) |   |  |
| 31 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 公民館の廃品回収や、地域活動等に参加しながら地域の人との交流を楽しんでいる。                                    |   |  |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 往診や定期受診の支援を行い、本人の心身の状況について情報を提供したり、症状を主治医に相談したりしている                       | 入居時に、かかりつけ医について意向を確認している。職員が受診に同行し、医師との情報共有を図り、結果を家族に伝えている。   |  |
| 33 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 介護職は常に利用者様の状態をチェックし、異変・異常があればすぐ看護師に報告し、適切な指導を受けている。                       |   |  |
| 34 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中は定期的に、面会に行き本人の状態の把握に努め、医療関係者にも状態を尋ねている。                                |   |  |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 本人・家族・協力院と話し合いをし十分なケアが出来る様に努めている。   | 入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、事業所の体制や方針を説明するように努めている。これまでに看取りの実績もあり、その都度の意向確認や話し合いを重ね、方針の共有に努めている。以前入居されていた方の3回忌法要が事業所で行われている。 | これまでの経緯や今後予測されるニーズを踏まえ、医療との密な連携体制作りに向けた働きかけや書式の整備、職員の意識や理解を深める取り組みが期待されます。 |
| 36 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | マニュアルを制作し、職員に配布している。また職員会議の中でも緊急時の対応について勉強している。                           |   |  |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |   |
|----------------------------------|------|--|---|--|---|
|                                  |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容                             |
| 37                               | (16) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている           | 組織図、連絡網を作り職員に配布すると共に、年二回の消火・避難訓練を実施している。又地震時や災害等については入居者様全員を玄関ホールに誘導する事を確認する。 | 年2回、消防への協力要請を行いながら、昼夜を想定した避難訓練を実施している。事業所はオール電化となっており、非常時には蓄電設備の活用も可能である。事業所前に、消防水利が設けられている。   | 隣接するタクシー会社や近隣住民との協力体制を、実際に確認する機会を持つことが期待されます。 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |  |   |
| 38                               | (17) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | プライバシーの保護に関する研修等も職員会議の中で研修している。毎日の業務の中でも、尊敬の念を持ち、丁寧な接遇を心がけている。                | 報道等による事例を職員間で共有し、意識を高めたり、日頃から、声のトーンや大きさに意識を持てるよう、職員に周知を図っている。  |   |
| 39                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 買いたい物や買う量などを出来るだけ本人の意思を尊重し、自己決定できる様に少しの助言に留めている。                              |  |   |
| 40                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様の時間を優先しているが、居室にこもりがちな利用者様にもホールに出でいただくよう声掛けをしている。                          |  |   |
| 41                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 外出や行事に合わせ、本人と話し合いながら衣服や靴を決めている。又、月に一度床屋さんに来てもらい理美容も希望に合わせている。                 |  |   |
| 42                               | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 季節感ある食材の提供や、行事食等を大切に、提供している。又、昔ながらの調理法など利用者様に教えていただく事もある。                     | 時には入居者と共に食材の買い物に出掛ける機会を持ち、嗜好を反映しながらメニューを決めることもある。野菜の下ごしらえや配膳等を役割として担ってもらい、それぞれの方のペースを尊重している。ホテルのレストランと事前に形状等について調整し、甘木のコスモス見学に出掛けた際には刺身等の食事を楽しむ機会もあった。 |   |
| 43                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 個人記録で摂取量を把握している。水分摂取量も注意してみている。お茶だけではなくジュースやコーヒー、紅茶等の嗜好品も時々提供している。            |  |   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|--|---|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                       | 自立した利用者様は声掛け、又は見守りのケアを施行し、介助の必要な利用者様は介助ケアを行っている。          |   |                   |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている       | 自力排泄が可能な利用者様は声掛けやトイレ誘導し、オムツの使用を減らすよう努めている。                | 個別の排泄記録を作成し、パターンや間隔に応じた声かけや、必要な支援を行い、トイレでの排泄を支援している。夜間の細やかな対応が、記録から確認できる。         |                   |
| 46 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                       | 本人の負担を軽く出来るよう排便コントロールをつかみ早めの緩下剤の使用等を試みている。                |   |                   |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴時には本人の好みに合わせ個浴や気の合う人との組み合わせを実施し、ゆっくりと入浴を楽しめるよう支援を行っている。 | 週3回の基本的な入浴スケジュールを設定し、2ユニットが交代で入浴を行っている。拒否される場合には、言葉かけやタイミングを工夫し、無理強いとならない様支援している。 |                   |
| 48 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                        | 本人の生活習慣を大事にし、午睡や早寝の習慣は状況に応じて支援する。                         |   |                   |
| 49 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている                   | 服薬管理は全体的に職員が行い、手のひらに乗せる又は口の中に入れて飲み込みの確認までする               |   |                   |
| 50 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている      | 洗濯物たたみや調理の手伝い等機能の低下を防げるよう出来る事を日々支援していく。                   |   |                   |



| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|--|---|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している                      | 夏場の早朝や天気の良い日には近くのスーパーや自動販売機まで散歩がてら買い物に行く、又、バスハイクや初詣、四季折々の花見に行くこともある。  | 季節に応じて、スーパーでの買い物や近隣の散歩等に出掛けるようにしている。季節行事では、外出先のレストランと事前に協議し、刻み食等に対応してもらっている。  |                   |
| 52 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 金銭感覚のある利用者様には、小遣い程度を所持してもらい、外出行事や買い物に行った時、支払をしていただくこともある。   |   |                   |
| 53 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 家族や友人等に電話をかけたいときは施設の固定電話を使用させていただき、又、携帯電話をお持ちのご利用者様には使い方を説明しています。手紙等を書かれた時はポスト投函をお手伝いしています。                             |   |                   |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 食堂や玄関ホールは床暖房をしている。又、中庭は夏はゴーヤでグリーンカーテンを演出し、冬は寒さに強い花や白菜を植え、春先は球根の花が芽を出すように四季を通じて目で楽しんでいただけるように演出している。又、居室も適温で空調管理を行っています。 | 玄関ホールや食堂には、床暖房が設置されている。回廊式で2ユニットがつながり、中心に位置する広い中庭の様子は、大きくとられた開放的な窓から見る事が出来る。ゴーヤや白菜等の野菜を育てたり、夏祭りでは浴衣やハッピーを着て楽しむ場所となっている。 |                   |
| 55 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 利用者様がそれぞれに居場所を見つけ気の合う方々同士の会話が飛び交っています。  |   |                   |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 利用者様一人一人が馴染みのある物、使い慣れた物を持ち込まれ、それぞれの個性に合わせて過ごしていただいています。   | 居室には、筆筒や鏡台、ソファやテーブルセットが持ち込まれており、生活感ある居室が多い。鏡台で毎朝の整容を行ったり、DVDで昔の洋画を鑑賞したりと、個別の習慣や楽しみごとの継続を支援している。                         |                   |
| 57 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 廊下は廻廊式になっているので、雨の日でも散歩代わりに施設内で歩行や、リハビリの為の歩行訓練が出来る様になっています。  |   |                   |